

【事例21】事業所間の連携した取組

(1) 那珂市地域自立支援協議会（就労支援部会）の事例

■ 開催スタイルを「スクール形式」から「グループワーク形式」へ見直し

- ・従来は一方的に話を聞くだけ＝事業所間の横のつながりが希薄
- ・「顔の見える関係」を作るために、それぞれの悩みを話し合えるようグループワーク形式で開催
- ・研修内容も自分たちで話し合って決める

■ 「顔の見える関係」を推進するため、事業所相互の見学会を開催

- ・見学受入れが可能な事業所一覧を作成し、見学を希望する場合は各自で日程調整（自分たちで日程調整することにより、より関係性が高まるることを期待）
- ・見学会の結果「作業内容や支援方法など、自分たちの事業所でもぜひ取り入れたい」「新たな気づきが多くあり、勉強になる」「顔の見える関係を築くことで気軽に相談しあえる関係にもなった」



お話を伺った「障がい者活動センターえくぼ(那珂市)」

【見学会に参加した職員の声】

- ① 見学先の事業所では、利用者でも理解しやすいよう、棚を活用して作業内容ごとに部材を整理していた
(部品の大きさによって幅・高さを変えられる)
→実際に見ないと分からなかった。自分の事業所に無いものであり、できるだけ取り入れたい
- ② 利用者が自主製品を製作していたが、販路先がないことが悩みだった
→参加した他事業所の職員が口コミで情報提供を行うとともに、販売会などを紹介したことで販路確保につながる
→情報を共有することで、就労支援部会での議論も活発になるとともに、地域イベントへの出店依頼も増加
- ③ 内職作業の効率化を図るために、製品を運搬する「手作り台車」を製作していた
→取り組みやすい事例であり、他の事業所からも注目を浴びていた

(※事業所からご提供いただいた写真になります)



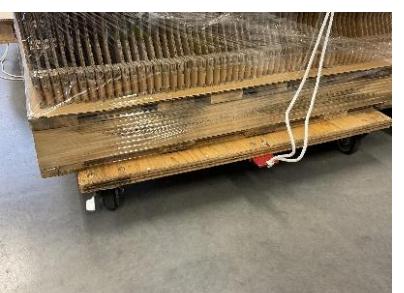
職員の声①（棚を活用して部材を整理）※



職員の声②（見学会先で製作されていた自主製品）※



職員の声③（手作り台車の例）



【事例21】事業所間の連携した取組

(2) 牛久障害福祉サービス事業所連絡会（就労部会）の事例

■ 「顔の見える関係」「生産活動や支援内容が見える関係」を重視して連携体制を構築

- ・利用者が事業所を選択しやすい環境づくりを推進
→利用者に選ばれる事業所になるため、良い意味で「事業所同士の競争意識」が生まれている
- ・他の事業所はライバルだが、仕事を取り合うのではなく、公共性を保ち、共存共栄を図っていくことが必要
→一つの事業所では難しい仕事でも、複数の事業所がそれぞれの得意分野を活かせば対応できる
(工賃向上にもつながる)

【主な連携事例】

- ①市内事業所が参加するイベントを開催
- ②請負作業（内職、施設外就労など）…作業量が集中した場合など事業所間で分担・協力して作業を実施
- ③市内事業所で製造した自主製品を、別な事業所で販売
- ④A事業所で野菜づくり→B事業所で食材として購入し弁当を製造→C事業所で弁当発注・購入（他市町村の事業所とも連携）

■ 地域の課題解決に障害者を活用

- ・地域に根差した取組みを進めていく（障害者は地域振興に寄与する「人財」）
- ・新たな業務の開拓を行う際、相手方に「何か困っていることやお力になれることがありますか？」を聞く
→困りごとの解決に新たな業務のヒントがある
 - 〔「お仕事はありますか？」では相手の負担や迷惑になってしまうことがあるが、困りごとを解決する取組みは相互に
メリットがあり、対等な関係の構築や持続可能な地域づくりにも寄与できる〕



お話を伺った「就労支援事業所
ほっとピア・ワークス（牛久市）」
(牛久市総合福祉センター内)

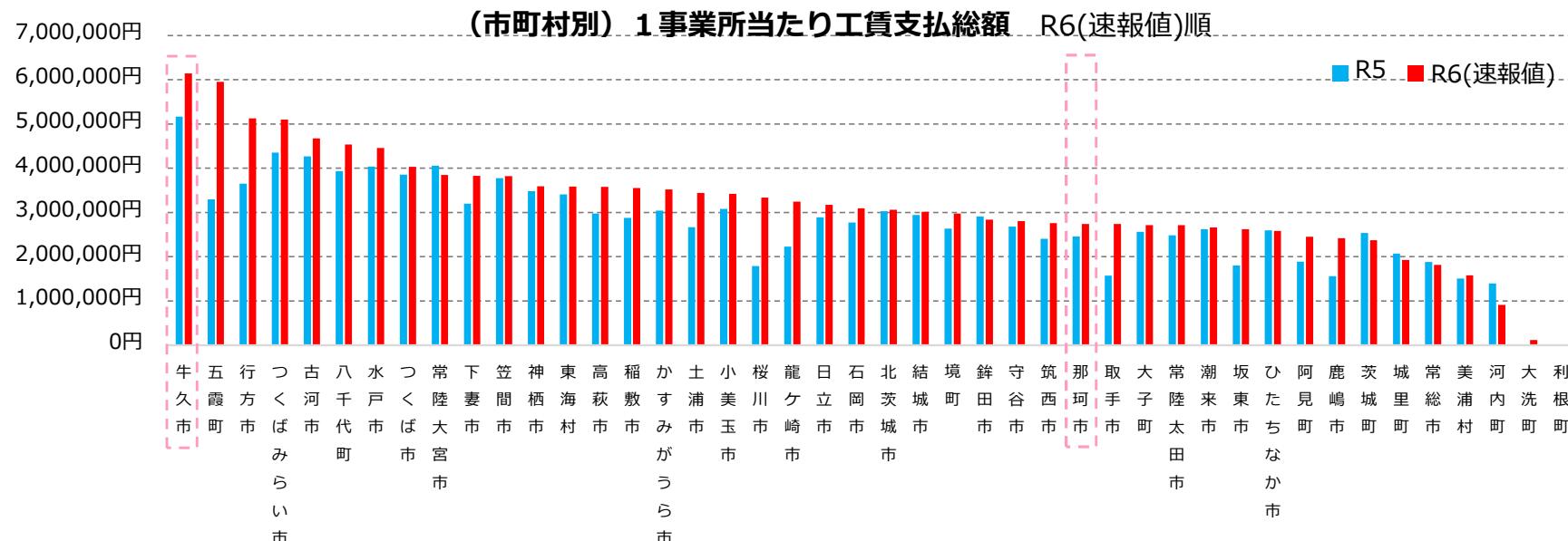
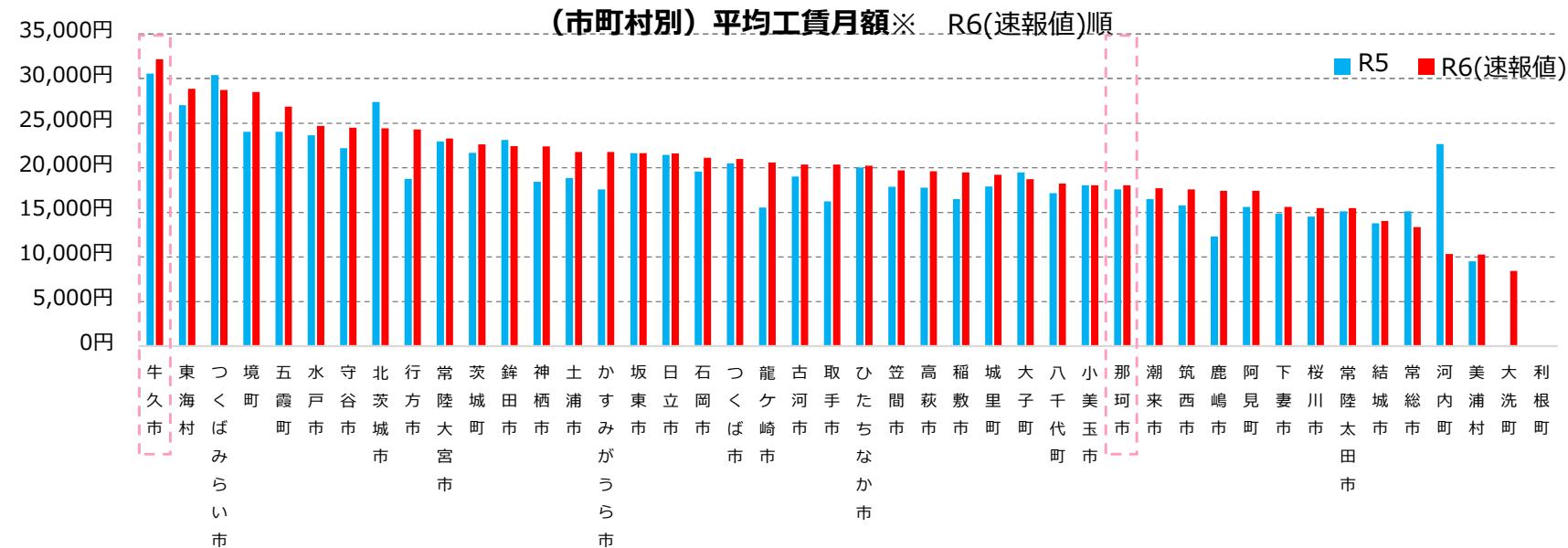


ほっとピア・ワークスで行われていた内職作業



総合福祉センター内にある
高齢者福祉サービス向けの
給食業務も請け負っている

【参考】市町村別平均工賃月額等実績



※該当する事業所の実績をもとに平均工賃月額の算定方法（新計算式）により算出